農林水產部 土木工事施工管理基準

新旧対照表

(令和3年8月15日改正)

改 正 後	現行備考
目 次	[目 次
土木工事施工管理基準	土木工事施工管理基準
別表第1 直接測定による出来形管理	別表第1 直接測定による出来形管理
【農業農村整備事業編】	【農業農村整備事業編】
(農業農村整備事業編)	(農業農村整備事業編)
1. 共通工事	1. 共通工事
2. ほ場整備工事	2. ほ場整備工事
3. 農用地造成工事	3. 農用地造成工事
4. 舗装工事・道路改良工事	4. 農道工事 工種名称の変
5. 水路トンネル工事	5. 水路トンネル工事 更
6. 水 路 工 事	6. 水路工事
7. <u>排水路工事・河川</u> 工事	7. 河川及び排水路工事 工種名称の変
8. 管水路工事	8. 管水路工事
9. 畑かん施設工事	9. 畑かん施設工事
10. 橋梁工事	10. 橋梁工事
11. 橋梁下部工事	11. 橋梁下部工事
12. 法面保護工事	12. 法面保護工事
13. 暗渠排水工事	13. 暗渠排水工事
14. フィルダム工事	14. フィルダム工事
15. 頭首工工事	15. 頭首工工事
16. 海岸河川工事	16. 海岸河川工事
17. ため池改修工事	17. ため池改修工事
18. 客 土 工 事	18. 客 土 工 事
19. 地すべり工事	19. 地すべり工事
20. 補強土壁工事	20. 補強土壁工事
21. 農業集落排水施設工事	21. 農業集落排水施設工事
22. 施設機械関係工事	22. 施設機械関係工事

改 正 後	現行	備考
(別表ア〜カについて)【略】	(別表ア〜カについて)【略】	
【森林整備保全事業編】【略】	【森林整備保全事業編】【略】	
別表第2 撮影記録による出来形管理	別表第2 撮影記録による出来形管理	
1. 共通工事	1. 共通工事	
2. ほ場整備工事	2. ほ場整備工事	
3. 農用地造成工事	3. 農用地造成工事	
4. <u>舗装工事・道路改良</u> 工事	4. <u>農道</u> 工事	工種名称の変 更
5. 水路トンネル工事	5. 水路トンネル工事	
6. 水 路 工 事	6. 水 路 工 事	- the house to
7. 排水路工事・河川工事	7. 河川及び排水路工事	工種名称の変 更
8. 管水路工事	8. 管水路工事	
9. 畑かん施設工事	9. 畑かん施設工事	
10. 橋梁工事	10. 橋梁工事	
11. 橋梁下部工事	11. 橋梁下部工事	
12. 法面保護工事	12. 法面保護工事	
13. 暗渠排水工事	13. 暗渠排水工事	
14. フィルダム工事	14. フィルダム工事	
15. 頭首工工事	15. 頭首工工事	
16. 海岸河川工事	16. 海岸河川工事	
17. ため池改修工事	17. ため池改修工事	
18. 治山工事	18. 治 山 工 事	
19. 林道工事	19. 林 道 工 事	
20. 地すべり工事	20. 地すべり工事	
21. 補強土壁工事	21. 補強土壁工事	

新旧対照表

【 土木工事施工管理基準 】

備考 改 正 後 現 行 十木工事施工管理基準 十木工事施工管理基準 別表第1 直接測定による出来形管理 【農業農村整備事業編】 別表第1 直接測定による出来形管理 【農業農村整備事業編】 (参 考) (参 考) 規格値(mm) 工 種 項目 測定基準 種 項目 規格値(皿) 測定基準 工. 管理基準値 (mm) 管理基準値 (mm) 1. 路床工 基準高(V) ± 50 ± 30 施工延長おおむね50m 1. 路 床 工 基準高 (V) ± 50 ± 30 施工延長おおむね50m につき1箇所の割合で につき1箇所の割合で (B) -100+100 -65測定する。 +100 -65測定する。 (B) -100上記未満は2箇所測定 上記未満は2箇所測定 中心線のズ ± 100 する。 ± 65 ± 65 する。 中心線のズ ±100 (e) 工種名称の変 (e) 施工延長 -0.2% 更 施工延長 -0.2%ただし延長50m未満 ただし延長50m未満 -1002. 路床安定 基準高 (V) ± 50 ± 30 上記と同一 ± 30 装 2. 路床安定 基準高 (V) ± 50 上記と同一 処理工. 処理工 -65幅 (B) -100 -65 (B) -100-30厚 さ (T) - 50 厚 さ(T) -30 道 施 工 延 長 [-0.2%] 施 工 延 長 -0.2% ただし延長50m未満 ただし延長50m未満 -100-100工 3. 路 盤 工 基準高 (V) 下層路盤 ±50 下層路盤 ±30 上記と同一 3. 路盤工 基準高(V) 下層路盤 ±50 下層路盤 ±30 上記と同一 +50 -35幅 (B) [-50 +50 -35-50(B) 厚 さ (T) 下層路盤 -50 事 下層路盤 ±30 厚 さ (T) 下層路盤 -50 下層路盤 ±30 上層路盤 -30 上層路盤 ±20 上層路盤 -30 上層路盤 ±20 中心線のズ ± 100 ± 65 中心線のズ ± 65 ± 100 (e) (e) 施 工 延 長 [-0.2%] 施 工 延 長 -0.2% ただし延長150m未満 事 ただし延長150m未満 -100- 100 -26--26-

			改正	後						現	行		備考
	工 種	項目	規格値(mm)	(参 考) 管理基準値(mm)	測定基準		工 和	重	項目	規格値(㎜)	(参 考) 管理基準値(mm)	測定基準	
	4. コンクリ	幅 (B)	-30	+30 -20	幅、中心線のズレにつ		4. コン:	クリ	幅 (B)	-30	+30 -20	幅、中心線のズレにつ	
	ート舗装	厚 さ (T)	コンクリート舗装	コンクリート舗装	いては施工延長おおむ		ート信	浦装	厚 さ (T)	コンクリート舗装	コンクリート舗装	いては施工延長おおむ	
	工		-10	+10 -6.5	ね50mにつき1箇所の		エ			-10	+10 -6.5	ね50mにつき1箇所の	
			アスファルト舗装	アスファルト舗装	割合で測定する。上記					アスファルト舗装	アスファルト舗装	割合で測定する。上記	
4.	アスファ		各層 -10	各層 +10 -6.5	未満は2箇所測定する。		アス	ファ		各層 -10	各層 +10 -6.5	未満は2箇所測定する。	
	ルト舗装		全層 -15	全層 +15 -10	厚さはおおむね500㎡		ルト	浦装		全層 -15	全層 +15 -10	厚さはおおむね500㎡	
	エ	中心線のズ	± 50	± 35	に1個の割合でコアを	4.	工		中心線のズ	± 50	±35	に1個の割合でコアを	
舗		ν (e)			取りコア又はコアホー				∨ (e)			取りコア又はコアホー	工種名称の変
					ルにより測定する。							ルにより測定する。	更
装		施工延長	-0.1%						施工延長	-0.1%			
			ただし延長150m未満			農				ただし延長150m未満			
エ			-150							-150			
事		平坦性(F)	(アスファルト舗装) 3mプロフィルメーター 標準偏差 σ=2.4mm以内 直読式標準偏差		平坦性は1車線につき 1測線全延長中心線に 平行に測定する。	道			平坦性(F)	(アスファルト舗装) 3mプロフィルメーター 標準偏差 σ=2.4mm以内 直読式標準偏差		平坦性は1車線につき 1測線全延長中心線に 平行に測定する。	
道			σ=1.75mm以内 (コンクリート舗装) 標準偏差 σ=2.0mm以内							$\sigma=1.75$ mm以内 (コンクリート舗装) 標準偏差 $\sigma=2.0$ mm以内			
路													
改	5. 砂利舗装 工	幅 (B)	-100	+100 -65	施工延長おおむね50m につき1箇所の割合で		5. 砂利領工	浦装	幅 (B)	-100	+100 -65	施工延長おおむね50m につき1箇所の割合で	
		厚 さ(T)	厚さ12cm未満	t < 12cm	測定する。	事			厚 さ(T)	厚さ12cm未満	t < 12cm	測定する。	
良			- 30	± 20						- 30	± 20		
			厚さ12cm以上	$t \ge 12cm$						厚さ12cm以上	$t \ge 12cm$		
工			- 45	± 30						— 45	±30		
		施工延長	-0.2%						施工延長	-0.2%			
事			ただし延長50m未満							ただし延長50m未満			
			-100							-100			
			<u> </u>	<u> </u>						-28-			

			改 正	後							現	行		備	考
	1		1	1							1	1			
工種	Ŋ	頁 目	規格値(㎜)	(参 考) 管理基準値(mm)	測定基準		エ	種	項	Į B	規格値(㎜)	(参 考) 管理基準値(mm)	測定基準		
6. 道路トン		幅(b)	-70		1.幅,間隔は全基数に		6. i	道路トン		幅(b)	- 70		1. 幅,間隔は全基数に		
ネル	支				ついて測定する。		3	ネル	支				ついて測定する。		
	保	間隔	± 75	± 50	2. 支保工幅の測定時期				保	間隔	± 75	± 50	2. 支保工幅の測定時期		
		(0)			は原則として建込み					(0)			は原則として建込み		
4.	工				直後及び覆工前の2				工				直後及び覆工前の2		
					回とする。								回とする。		
			± 50	± 30	1. 基準高, 幅, 巻厚, 高さについては1	4.				基準高	± 50	± 30	1. 基準高, 幅, 巻厚, 高さについては1	工種名	称の変
<mark>舗</mark> 		(V)			スパンにつき 1 箇 所の割合で測定す					(V)			スパンにつき1箇 所の割合で測定す	更	
		幅(B)	-70	±45	- る。					幅(B)	-70	±45	る。		
装		巻厚	-50	-30	2. 巻厚 (イ) コンクリート打設					巻 厚	-50	-30	2. 巻厚 (イ) コンクリート打設		
		(T)			前の巻立空間を1	農				(T)			前の巻立空間を1		
	コ	10, 0	-70	±45	スパンの中間と終 点において図に示				コ	高さ	-70	± 45	スパンの中間と終 点において図に示		
		(H)			す①~⑩の各点で					(H)			す①~⑩の各点で		
事 <mark> </mark> 	ン		直線部 ±100	直線部 ± 65	測定する。 (ロ)コンクリート打設	134	i l		ン	中心線	直線部 ±100	直線部 ± 65	測定する。 (ロ)コンクリート打設		
	<i>h</i>	のズレ		II 465 - 127 - 1 - 4 - 0 - 0	後の覆エコンクリートについて1ス	道			>	のズレ			後の覆エコンクリートについて1ス		
	ク	(e)	曲線部 ±150	曲線部 ±100	パンの端面(施工				ク	(e)	曲線部 ±150	曲線部 ±100	パンの端面(施工		
 <mark>道</mark>	l IJ	# T	0.10/		 継目) において図 に示す①~⑩の各				11	+/	0.10/		_ 継目)において図 に示す①~⑩の各		
連 	ا		-0.1% ただし延長150m未満		点で測定する。				ソ	施工	-0.1% ただし延長150m未満		点で測定する。		
 路 <mark> </mark>	ı	延長	- 150		(ハ)削孔による巻厚の 測定は図の①にお				1	延長	150 150		(ハ)削孔による巻厚の 測定は図の①にお		
I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	'		-150		いて50mにつき 1 箇所, ②③⑨にお				'		- 150		いて50mにつき1 箇所, ②③⑨にお		
 改 <mark> </mark>	1				いて100mにつき				k				いて100mにつき		
	'				1 箇所の割合で行 う。ただし, トン	事			1				1 箇所の割合で行 う。ただし, トン		
自自自	覆				ネル延長が100m				覆				ネル延長が100m		
	18				未満のものについ ては,2箇所以上				1友				未満のものについ ては,2箇所以上		
					の削孔を行い巻厚				エ				の削孔を行い巻厚		
					測定を行う。 3. 中心線のズレ								測定を行う。 3. 中心線のズレ		
事					直線部は50mにつ き 1 ヶ所, 曲線部								直線部は50mにつ き 1 ヶ所, 曲線部		
					は1スパンにつき								は1スパンにつき		
					1 ヶ所の割合で測 定する。								1ヶ所の割合で測 定する。		
					-										
			-30-								-30-				
			00												

	改 正 後		現行	備考
工種	項 目 規格値(mm) (参 考) 管理基準値(mm)	測定基準	工 種 項 目 規格値(mm) (参 考)	
7. 道路トンネル (NATM) 4. 舗 装 工	支	幅,間隔は全基数について測定する。 支保工幅の測定時期は原則として建込み直後及び覆工直前の2回とする。 施工延長50m毎に図に示す(1)~(7)及び断面変化点の検測孔を測定する。		□種名称の変 更
· 道 路 改 良 工 事	位置間 □ 隔(L) ッ 角 度 ク (θ) ボ 深 さ ル (ℓ) ト 孔 径 (φ)	施工延長50m毎に断面全本数を測定する。 (深さについては、残尺で管理する。)	位置間	
	-32-		-32-	

				改 I	E 後						現	行		備考
工	種	項	Į I	規格値(㎜)	(参 考) 管理基準値(mm)	測定基準		工	Î J	頁 目	規格値(㎜)	(参 考) 管理基準値 (mm)	測定基準	
	. 道路トン ネル (NATM)		基準高 (V)	±50	± 30	(1) 基準高,幅,高 さについては施工 延長50mにつき 1 箇所の割合で測定		7. 道路ト ネル (NAT		基準高 (V)	±50	±30	(1) 基準高,幅,高 さについては施工 延長50mにつき 1 箇所の割合で測定	
4.			幅(B)	-50	-30	→ する。 (2) 巻厚 (1) コンクリート → 打設前の巻立空間				幅(B)	-50	-30	─ する。(2) 巻厚(1) コンクリート─ 打設前の巻立空間	
			巻 厚 (T)	- 0	- 0	■ 打設前の各立空間 を, 1打設長の終 点を図に示す各点 ■ で測定, 中間部は	$\begin{vmatrix} 1 \\ 4 \end{vmatrix}$			巻 厚 (T)	- 0	- 0	■ 打設間の各立空間を	工種を扱の亦
舗		コ	高 さ (H)	-50	-30	コンクリート打設 ロで測定する。 (ロ) コンクリート			コ	高 さ (H)	- 50	-30	コンクリート打設 ロで測定する。 (p) コンクリート	工種名称の変更
装		ン		直線部 ±100 曲線部 ±150	直線部 ± 65 曲線部 ±100	打設後, 覆エコン クリートについて 1打設長の端面	農				直線部 ±100 曲線部 ±150	直線部 ± 65 曲線部 ±100	打設後, 覆エコンクリートについて1打設長の端面	
		ク	(e)			(施工継手の位置) において図に示す 各点で巻厚測定を			ク	(e)			(施工継手の位置) において図に示す 各点で巻厚測定を	
事		IJ	施工延長	-0.1%, ただし 延長150m未満		─ 行う。(ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の	道		y	施工延長	-0.1%, ただし 延長150m未満		一 行う。 (ハ) 検測孔による 巻厚の測定は図の	
		1		-150		(1)は50mに1箇 所,(2)~(3)は100 mに1箇所の割合 で行う。			1		-150		(1)は50mに1箇 所,(2)~(3)は100 mに1箇所の割合 で行う。	
道		<u>۱</u>				なお, トンネル延 長が100m以下の ものについては,			F				なお,トンネル延 長が100m以下の ものについては,	
路		覆				1トンネル当たり 2箇所以上の検測 孔により測定を行			覆				1トンネル当たり 2箇所以上の検測 孔により測定を行	
改		工				う。 (=) ただし以下の 場合には適用除外	事		エ				う。 (=) ただし以下の 場合には適用除外	
艮						とする。 ・良好な地山におけ る岩又は吹付コン クリートの部分的							とする。 ・良好な地山におけ る岩又は吹付コン クリートの部分的	
工						な突出で,設計覆 工厚の3分の1以 下のもの。							な突出で,設計覆 工厚の3分の1以 下のもの。	
# #						なお変形が収束し ているものに限 る。							なお変形が収束し ているものに限 る。	
				<u>-34</u>						<u> </u>	<u> </u>			

新 旧 対 照 表

【 土木工事施工管理基準 】

				改 正	後						現	行		備考
		1		I	1						I	1		
	工 種	項	[目	規格値(㎜)	(参 考) 管理基準値(mm)	測定基準		工 種	項	Į	規格値(㎜)	(参 考) 管理基準値(mm)	測定基準	
	7. 道路トン					・異常土圧による覆工		7. 道路トン					・異常土圧による覆工	
	ネル					厚不足で,型枠の据		ネル					厚不足で,型枠の据	
	(NATM)					付け時には安定が確		(NATM)					付け時には安定が確	
						認され,かつ別途構							認され,かつ別途構	
4.						造的に覆工の安全が							造的に覆工の安全が	
						確保されている場合。							確保されている場合。	工種名称の変
						・鋼製支保工, ロック	4.						・鋼製支保工, ロック	更
舗						ボルトの突出。							ボルトの突出。	
		コ							コ					
装														
		ン					農		ン					
エ														
		ク							ク					
事														
		IJ					道	:[IJ					
$ \cdot $														
		1							Ì					
道														
		1							1					
路														
		覆							覆					
改														
		工					事		エ					
良														
事														
				-36-							- 36-			

			改正	後						現	行		備考
	<u> </u>	項目	規格値(mm)	(参 考) 管理基準値(mm)	測定基準		工 種	項	目	規格値(㎜)	(参 考) 管理基準値(mm)	測定基準	
	1. コンクリ ート法覆	基準高 (V)	± 45	±30	施工延長おおむね50m につき1箇所の割合で		1. コンクリ ート法覆	基準高	(V)	± 45	±30	施工延長おおむね50m につき1箇所の割合で	
	I	厚 さ(T)	厚さ10cm未満 -20 厚さ10cm以上 -30	厚さ10cm未満 ±15 厚さ10cm以上 ±20	 測定する。 上記未満は2箇所測定		工	厚さ	(T)	厚さ10cm未満 -20 厚さ10cm以上 -30	厚さ10cm未満 ±15 厚さ10cm以上 ±20	測定する。 上記未満は2箇所測定	
7.	アスファ ルト法覆 エ	法 長(L)	法長2m未満 -50 法長2m以上 -100	法長2m未満 ±30 法長2m以上 ±65	する。	7.	アスファ ルト法覆 エ	法 長	(L)	法長2m未満 -50 法長2m以上 -100	法長2m未満 ±30 法長2m以上 ±65	する。 	工種名称の変
排		施工延長	-0.1% ただし延長150m未満 -150			河		施工页	£ 長	-0.1% ただし延長150m未満 -150			更
路 :	2. コンクリ	基準高 (V)	±50	±30	基準高,中心線のズレ	川	2. コンクリ	基準高	(V)	±50	±30	基準高,中心線のズレ	
エ	ートブロ ック積み			±25	(直線部)については施工延長おおむね50mに	び	ートブロ		(B)		±25	(直線部)については施 工延長おおむね50mに	
事	水路	高さ(H)	-40	± 25	つき1箇所の割合で測定する。中心線のズレ	排	水路	高さ	(H)	-40	± 25	つき 1 箇所の割合で測 定する。中心線のズレ	
河	鉄筋コン クリート 柵渠		直線部 ± 50 曲線部 ±100	直線部 ±35 曲線部 ±65	(曲線部)については, おおむね10mに1箇所 の割合で測定する。	水	鉄筋コン クリート 柵渠			直線部 ± 50 曲線部 ±100	直線部 ±35 曲線部 ±65	(曲線部)については, おおむね10mに1箇所 の割合で測定する。	
л		施工延長	-0.1% ただし延長150m未満		上記未満は2箇所測定する。幅,高さについては,施工延長50mに	路		施工延	£ 長	ただし延長150m未満		上記未満は2箇所測定 する。幅,高さについ ては,施工延長50mに	
事			<u>-150</u>		つき1箇所の割合で測 定する。 上記未満は2箇所測定	事				— 150		つき1箇所の割合で測 定する。 上記未満は2箇所測定	
					する。							する。	
			-48-							—48—			

				改 正	後						現	行		備考
-	工 種	項	目	規格値(㎜)	(参 考) 管理基準値(mm)	測定基準		工 種	項	目	規格値(㎜)	(参 考) 管理基準値(mm)	測定基準	
	3. ライニン	基準高	(V)	± 75	±50	施工延長おおむね50m		3. ライニン	基準高(V)	± 75	±50	施工延長おおむね50m	
	グ水路	幅	(B)	— 75	± 50	につき1箇所の割合で		グ水路	幅 ((B)	– 75	± 50	につき1箇所の割合で	
		法 長	(L)	法長2m未満 -50	法長2m未満 ±30	測定する。			法 長(L)	法長2m未満 -50	法長2m未満 ±30	測定する。	
	連節ブロ			法長2m以上 -100	法長2m以上 ±65	上記未満は2箇所測定		連節ブロ			法長2m以上 -100	法長2m以上 ±65	上記未満は2箇所測定	
	ック	施工延	長	-0.1%		する。		ック	施工延	長	-0.1%		する。	
7.				ただし延長150m未満							ただし延長150m未満			
	コンクリ			-150			7.	コンクリ			-150			工種名称の変
	ートマッ							ートマッ						更
排	1							F						
							河							
水														
							ЛП							
路														
	4. 護 岸 工	基準	高	± 50	± 30	施工延長40m (測点	及	4. 護 岸 工	基準	高	± 50	±30	施工延長40m(測点	
エ	(コンクリ					間隔50mの場合が50		(コンクリ					間隔50mの場合が50	
	ート張工)	厚さ	(T)	厚さ10cm未満 -20	厚さ10cm未満 -10	m) につき 1 箇所	び	ート張工)	厚さ(T)	厚さ10cm未満 -20	厚さ10cm未満 -10	m) につき 1 箇所	
事				厚さ10㎝以上 -30	厚さ10cm以上 -20						厚さ10cm以上 -30	厚さ10cm以上 -20		
	(アスファ	法 長	(L)	法長3m未満 -45	法長3m未満 -30		排	(アスファ	法 長(L)	法長3m未満 -45	法長3m未満 -30		
•	ルト張工)			法長3m以上 -100	法長3m以上 -65			ルト張工)			法長3m以上 -100	法長3m以上 -65		
							水							
河	(コンクリ	施工延	長	-200	-130			(コンクリ	施工延	長	-200	-130		
	ート張枠						路	ート張枠						
川	工)							工)						
	5. 護 岸 工	基準	高	± 50	±30	施工延長40m (測点		5. 護 岸 工	基準	高	± 50	±30	施工延長40m (測点	
エ	(コンクリ					間隔50mの場合は50		(コンクリ					間隔50mの場合は50	
	ートブロ	高 さ	(t)	- 50	-30	m) につき 1 箇所	事	ートブロ	高さ(t)	– 50	-30	m) につき 1 箇所	
事	ック張工)	法 長	(L)	法長3m未満 -45	法長3m未満 -30]		ック張工)	法 長 (L)	法長3m未満 -45	法長3m未満 -30		
				法長3m以上 -100	法長3m以上 -65						法長3m以上 -100	法長3m以上 -65		
		施工延	長長	-200	-130]			施工延	長	-200	-130]	
				-50-							-50-			
				JU							JU			

	5	汝 正	後				現 行		備考
別表第1 直接測	則定による出き 項 目 基準高 ▽ ケーソンの長さ ℓ ケーソンの幅 w ケーソンの高さ h ケーソンの壁厚 t	来型管理 【森林 規格値(mm) ±100 -50 -100 -20	整備保全事業編】 測定基準 壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量 については各打設ロットごとに 測定。	3 : 3 : 3 : 3 : 3 : 3 : 3 : 3 : 3 : 3 :	表第1 直接液 工 種 2 8 オープンケー メン基礎工 基礎 9 ニューマチッ エ クケーソン基礎 エ	則定による出き 項 目 基準高 ▽ ケーソンの長さ Q ケーソンの幅 w ケーソンの高さ h ケーソンの壁厚 t	来型管理 【森杉 規格値(mm) ±100 -50 -50 -100 -20	整備保全事業編】 測定基準 壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量 については各打設ロットごとに 測定。	
10 鋼管矢板基礎工	偏心量 d	+100 設計値以上 300以内	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。		10 鋼管矢板基礎工	基準高 ▽ 根 入 長 偏心量 d	±100 設計値以上 300以内	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	
3 1 コンクリート ブロックエ 石 (コンクリートブ・ロック積) ブ (コンクリートブ・ロック張り) ック積 張工	上 法 長 ℓ	±50 法長3m未満 - 50 法長3m以上 -100 -50 -200 ±0.3分	施工延長40mにつき1ヶ所、延 長40m以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所。 厚さは上端部及び下端部の2ヶ所 を測定。	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	3 1 コンクリート ブロックエ (コンクリートブ ロック積) (コンクリートブ ロック張り) ウ 漬 長 エ	基準高 ▽ 法 長 0 厚さ(プロック積張) t 1 厚さ(裏込) t 2 延 長 L のり勾配 i	±50 法長3m未満 - 50 法長3m以上 -100 -20 -30 -200 ±0.3分		規格値の改正
		—160 —					—160 —		

新 旧 対 照 表

【 土木工事施工管理基準 】

			改	正	发					現 行		備	考
I	種		項目	規格値(㎜)	測定基準		工 種		項 目	規格値(㎜)	測定基準		
5 3 2 根 クエ 突 根	固めブロッ	基準	層積	<u>± 300</u>	施工延長40mにつき1ヶ所、延長 40m以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。	5 突 堤 堤	3 2 根固めブロッ クエ 艮	基準	層積	<u>±100</u>	施工延長40mにつき1ヶ所、延長 40m以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。	規格値の	つ改正
突根間めて		高▽	乱積	± t /2		b	国 う に	高▽	乱積	± t /2			
		厚	ヹ さ t	-20	幅、厚さは40個につき 1 ヶ所測 一定。			厚	! さ t	-20	幅、厚さは40個につき 1 ヶ所測 定。		
		幅	層積	-20	~_ 0			幅	層積	-20			
		w ₁ w ₂	乱積	- t /2				w ₁	乱積	- t /2			
		延長	層積	-200	1施工箇所毎			延長	層積	-200	1施工箇所毎		
		L_1 L_2	乱積	- t /2				$\begin{bmatrix} L_1 \\ L_2 \end{bmatrix}$	乱積	- t /2			
	波ブロック	基準	層積	±300	施工延長40mにつき1ヶ所、延長 40m以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。		1 1 消波ブロック 工 当	基準	層積	±300	施工延長40mにつき1ヶ所、延長 40m以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。		
消波工工		高▽	乱積	± t /2		浙 コ	女 二	高▽	乱積	± t /2			
			I さ t	-20	幅、厚さは40個につき1ヶ所測			厚	! さ t	-20	幅、厚さは40個につき 1 ヶ所測 一定。		
			幅w1 w2	-20	定。			1	屬w1 w2	-20	<u></u>		
		<u>5</u>	延長L1 L2	-200				<u>3</u>	延長L1 L2	-200			
				-222-						-222-			

改正	後				現	<u>ਜ</u>	備考
別表第2 撮影記録による出来形管理		別表	表第2	撮影記	録による出来形管理		
上記未満は2箇所撮影する。 4 2. 路 床 安 定 上記と同一 処 理 工 3. 路 盤 工 上記と同一 4 コンクリート 上記と同一 及びアスファ	撮影箇所 幅,まき出し厚さ,転圧,その他必要箇所を撮影する。 上記と同一 上記と同一 幅,厚さ,その他必要箇所を撮影する。		4. コン 及び	末 安 定 里 工 盤 工 クリート アスファ	撮 影 基 準 施工延長おおむね50~100mにつき 1 箇所の割合で撮影する。 上記未満は 2 箇所撮影する。 上記と同一 上記と同一	撮影箇所 1幅, まき出し厚さ, 転圧, その他必要箇所を撮影する。 上記と同一 上記と同一 幅, 厚さ, その他必要箇所を撮影する。	工種名称の変更
・	坑口,その他必要箇所を撮影する。	工	5. 砂利		上記と同一	坑口, その他必要箇所を撮影する。	
良 撮影する。 エ 7. 道路トンネル 掘削はタイプの変化するごとに1箇所、ロックボルトは100mに1箇所、コンクリート吹付は50mに1箇所、巻厚については1スパンにつき1箇所の割合で撮影する。	ボルト、コンクリート吹付、坑口、	事			撮影する。 掘削はタイプの変化するごとに1箇所,ロックボルトは100mに1箇所,コンクリート吹付は50mに1箇所,巻厚については1スパンにつき1箇所の割合で撮影する。	その他必要箇所を撮影する。	
5 1. 水路トンネル 巻厚については1スパンにつき1箇所の割合で撮影する。その他は掘削タイプの変化するごとに1箇所の割合で撮影する。 トンネル工事 エ		5 水路トンネル工事	1. 水路	トンネル	巻厚については1スパンにつき1箇 所の割合で撮影する。その他は掘削 タイプの変化するごとに1箇所の割 合で撮影する。	坑口,その他必要箇所を撮影する。	
1. 現場打開水路 おおむね2スパンにつき	幅,厚さ,高さ,配筋,打継目,そ の他必要箇所を撮影する。 上記と同一	6 水 路	2. 現場	打開水路打サイホン	おおむね2スパンにつき 1箇所の割合で撮影する。 上記と同一	幅,厚さ,高さ,配筋,打継目,その他必要箇所を撮影する。 上記と同一	
工 3. 現場打暗渠 上記と同一 事	上記と同一	事	3. 現場	<u></u> 打暗渠	上記と同一	上記と同一	
-292-					-292-		

改正	後	現行	備考
工 種 撮影基準 4. 鉄筋コンクリー 施工延長おおむね50~100mにつきト大型フューム 1箇所の割合で撮影する。鉄筋コンクリー上記未満は2箇所撮影する。トレ形水路路 本 トレ形水路	撮影箇所 鉄筋コンクリート大型フリュームについては、布設、その他必要箇所を 鉄筋コンクリートL型水路については、幅、厚さ、布設、その他必要箇所を撮影する。	工種撮影基準撮影箇所4. 鉄筋コンクリー 施工延長おおむね50~100mにつき ト大型フューム ト大型フューム 1箇所の割合で撮影する。鉄筋コンクリート大型フリュームに ついては、布設、その他必要箇所を 鉄筋コンクリートL型水路について は、幅、厚さ、布設、その他必要箇所を は、幅、厚さ、布設、その他必要箇 所を撮影する。	
事 5. ボックスカルバ 上記と同一 ート水路 1. コンクリート法 上記と同一 7 覆エ アスファルト法 排 覆工	高さ、その他必要箇所を撮影する。幅、厚さ、法長、法勾配、その他必要箇所を撮影する。	事 5. ボックスカルバート水路 高さ,その他必要箇所を撮影する。 1. コンクリート法	工種名称の変
路 2. コンクリートブ 上記と同一 エ ロック積み水路 鉄筋コンクリート ト柵渠 河 川 エ 3. ライニング水路 上記と同一事 連節ブロック張	コンクリートブロック積み水路については基礎関係、裏込、幅、高さ、その他必要箇所を、鉄筋コンクリート柵渠については、アーム間隔、柵板設置、その他必要箇所を撮影する 布設、幅、法長、その他必要箇所を撮影する撮影する。	及 2. コンクリートブ 上記と同一 コンクリートブロック積み水路については基礎関係、裏込、幅、高さ、その他必要箇所を、鉄筋コンクリート柵渠 排 鉄筋コンクリート柵渠 ト柵渠については、アーム間隔、柵板設置、その他必要箇所を撮影する エ 事 3. ライニング水路 上記と同一 布設、幅、法長、その他必要箇所を撮影する 撮影する。 撮影する。	更
コンクリートマット 1. 管体基礎工 施工延長おおむね50~100mにつき 1 箇所の割合で撮影する。 上記未満は2 箇所撮影する。 8 2. 管 水 路 上記未満は2 箇所撮影する。 上記と同一 で 「遠心力鉄筋コンクリート管」	基礎、埋戻しの厚さ、幅、まき出し、 締固め状況等を撮影する。 管布設状況、外観検査、ジョイント 関係、その他必要箇所を撮影する。	コンクリートマット	
路 工 3.管 水 路 工 3.管 水 路 事 (強化プラスチック 複合管 ダクタイル鋳鉄 管 一 294	上記と同一	路 1 エ 3. 管 水 路 上記と同一 事 (強化プラスチック 複合管 ダクタイル鋳鉄 管 ー294ー	

			改	Œ	後						琈	1 行				備考
別表第4	施工管理	理記録様式						別表第4	施工管理記錄	录様式						
							療								兼	元号平成の削除
			Н				н				Н			平成	ц	
			種			年度					種			年度		
			中								梅					
			・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・								略					
			選 								垣頃					
				\ 3e		40						130		40		
			加	受 注 者		業					中	受 注 者		業		
			哪								哪					
			描								描					
			运		Н						遍		Н			
			ш		⊢ 1						ш		⊢ ₩			
			中		ı	当区					地		1	割図		
			叫		子里 日出 日 日	ı					啷	У	丹田 田 H	ı		
			描		程片質全體形質						描	H	程片質今韻形質			
			海		管置理理						温	ļi li				
			ш		程 管 理 図 来 形 管 理 図 質 管 理 図 全 管 理 図						ш	ц	群 亲 曾 形 明 四 里 單 四 四 四 四 四 四 四 四 三 三 四 三 三 三 四 三 三 三 四 四 三 三 三 四 四 三			
					表表表料							<u> </u>	表表表			

改 正 後	現行	備考
様式 10-1	様式 10-1	
X-R管理データシート(1) 監督員 現場代理人又 は12 任技術者 施工管理	X-R管理データシート(1) 監督員 環境代理人文 は主任技術者 施工管理責任者	
名		元号平成の削除
測定単位 日標準量 上限値 大きさ	測定単位 日標準量 上限値 大きさ 規格限界 試料	
規格限界 下限值 間隔 測定者 設計基準値 作業機械名 作成者	下限值 間隔 測定者 設計基準値 作業機械名 作成者	印の削除
2 1.13 1.88 3 3 1.69 1.02 2 4 2.06 0.73 2	1	
3.21組~40組までは別に新しいデータシートに記入する。以下20組ごとに同様とする。	3.21組〜40組までは別に新しいデータシートに記入する。以下20組ごとに同様とする。	

では、	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	備考
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	-	
日		

		改	正	後						3	現 行	Ī			備考
様式 14							村	美式 14							
鋼管溶接	測定結界	早一覧表		監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者	鄙	管溶接	測定結果	是一覧表		監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者	
工事名:				受 注 者 :			<u></u>	事 名 :				受 注 者:			
工種名:				測定者:			<u></u>	種 名 :				測定者:		<u>(fi</u>)	印の削除
測定位置	美			值 Y'	規格値	摘要	測	定位置	美		測 	值 Y'	- 規格値	摘要	
	Х	Y	X'	Y					Х	Υ	X'	Y			

改正	後	現行	備考
様式 15		様式 15	
鋼管溶接塗覆装点検表	監督員 ^{現場代理人又} 施工管理責任者	鋼管溶接塗覆装点検表 <u>監督員 環場代理人又 協工管理責任者</u>	
工事名:	受 注 者 :	工事名:	
	測 定 者 :	<u>測 定 者 : </u>	印の削除
測 定 位 置 工 種 項	目 割 定 摘 要	測定位置 工種 項目 判定 損要 良否 否	

	⊐ ⊢		14.					土木丄事施丄官埋基準 】	/# - *
	改	正					現行		備考
(注1) 規格値は、埋戻しの値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。 (注2) 接合時の測定は、呼び径700mm以下の場合、管の外から確認してもよい。 また、埋戻し後の測定は、PC管等重要な管を除き呼び径700mm以下の測定は必要ない。 (注3) 施工データが安定するまでの間は、上表の4箇所にこだわらず密に測定すること。			工 種 名 測定在月日 測定在 間 測定 値 (接 合 時) 平 均 定 備 ((,	模式 16	(注1) 規格値は、埋戻しの値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。 (注2) 接合時の測定は、呼び径700m以下の場合、管の外から確認してもよい。 また、埋戻し後の測定は、PC管等重要な管を除き呼び径700m以下の測定は必要ない。 (注3) 施工データが安定するまでの間は、上表の4箇所にこだわらず密に測定すること。		管水路ジョイント間隔測定結果一覧表	
過光箇所			測定	監督員 現場代記人又 施工管理責任者 は主任政府者		過度簡別		See A	印の削除

			3		•	Œ		後	Š.									Į	見	1	丁							備
様式 17														様式 17														
埋設とう性	生管た	:わみ	ナ量	管理	里表					監督	肾	現場代理人又は主任技術者施工作	任者	埋設とう性	管た	わみ	量	管理	₹表				監	督員	現場代理人は主任技術	施工管理	責任者	
工事名	:						受 ;	主	首 :					工事名:						受	注	者 :						
管種(長さ)	:						測	定有	首 :					管種(長さ):						測	定	者:					<u> </u>	印のド
測 定 位 置	管 打 Dv ^た み		T	_		戻し Dh				完了 Dh		D × t(測定位置	管 bv b		時 たわ み率			戻し ^た	_	_	_	了 時 たわ み率	D	× t(mm)	
(管番号)					%		が単 %	mm	が華 %	mm	<i>%</i>	(内径)(管		(管番号)	mm 9				%	mm 9			mm	%	(内在	圣)(管厚)	
													_															
						+																						
						+							_															
						\perp																						
						+																						
たわみ率の計算														たわみ率の計算														
たわみ半の計算 △X/2R×100											2R: 🕯	管厚中心直径		△X/2R×100	(%)									2R:	管厚中の	心直径		
ΔX=[2R-	-(Dv+t))又は(2R-	(Dh+	t)]						t:	管厚		ΔX=[2R-	(Dv+t)]又は[2	2R-((Dh+	t)]					t:	管厚			
注)1.マーキング(2.測定につい 3.「矢板引抜き	ては「土木コ	□事施工	管理基	準」 '					≤う性管	膏)の測	定基準	による。		注)1.マーキング位 2.測定について 3.「矢板引抜き	は「土木ユ	事施工管	查理基	準」					管)の》	則定基準	些による。			

様式 19			備
	様式 19		
杭打ち成績表	杭打ち成績表	監督員 ^{現場代理人又} は主任技術者 施工管理責任者	
工 事 名 : 受 注 者 :	工事名:	受 注 者 :	
工 種 名 : 測 定 者 :	工種名:	測 定 者 : <u>〔</u>	印の
杭打込み 月日 杭番号 杭規格 (m) (cm) 打込回数 リバウンド 平均沈下量 支持力 (cm) (kN) 摘要	杭打込み 月 日 杭 番 号 杭 規 格 ^{測定時杭深度} ハンマー落下高 (m) (cm)	打込回数 リバウンド 平均沈下量 支 持 力 (cm) (cm) (kN) 摘 要	
杭配置図 適用公式名:	杭配置図	適用公式名:	
		_設計支持力:	

改正後	現行	俳
様式 21	様式 21	
路面の平坦性試験表 (標準偏差) <u>監督員 関場代理人</u> 区 協立管理責任者	路面の平坦性試験表(標準偏差) 監督員 関連 (は主任技術者) 施工管理責任者	
工事名	工事名	
施工地名 測定器の種類 測定年月日	施工地名 測定器の種類 測定年月日	
測 定 者		印6
$\bar{R} = \frac{R_1 + R_2 + R_3 \cdots Rn}{n}$	$\bar{R} = \frac{R_1 + R_2 + R_3 \cdots Rn}{R_1 + R_2 + R_3 \cdots Rn}$	
17K	標	
$\begin{bmatrix} \frac{\varphi}{G} \\ \frac{1}{Z} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{G}{G_2} \\ \frac{G}{G_2} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{G}{G_2} \\ \frac{G}{G_2} \\ \frac{G}{G_2} \end{bmatrix}$	$\begin{bmatrix} \frac{\ddot{z}}{\ddot{z}} \\ \ddot{z} \end{bmatrix} \sigma = \frac{\ddot{R}}{d_2}$ $\frac{6}{7}$ $\frac{2.70}{}$	
8 2.85	の 計 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
2.01	9 2.97	
10 3.08	10 3.08	
グループ 範囲(R) グループ 範囲(R) グループ 範囲(R) グループ 範囲(R) グループ 範囲(R)	グループ 範囲(R) グループ 範囲(R) グループ 範囲(R) グループ 範囲(R) グループ 範囲(R)	

改正後	現行	備考
様式 22	様式 22	
プルーフローリング試験 監督員 ^{現場代理人又} _{は主任技術者} 施工管理責任者	プルーフローリング試験 監督員 環場代理人又 は主任技術者 施工管理責任者	
工事名: 受注者:	工事名:	
工 種 名:	工種名:	印の削除
項目 事項 備考 天候 測定面の含水状況	項目 事項 備考 天候 測定面の含水状況	
試験区間 No. 載荷車 型式 接地圧	試験区間 No. 載荷車 型式 接地圧	
載 荷 状 況 予定載荷回数 回 本載荷速度 km/h	載 荷 状 況 予定載荷回数 回 本載荷速度 km/h	
試験結果	試験結果	
No. No. No. No. No. No. No. No. No. Ro. Ro. Ro. Ro. Ro. Ro. Ro. Ro. Ro. R	No. No. No. No. No. No. No. No. No.	
展開図 No.	展開図 No.	
規 察 察 記 事	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
異常 個所 の 処 置	異常 個所 の 処置	

改 正 後	現行	備考
様式 24-1 X-Rs-Rm管理データシート 監督員 環境代理人又 施工管理責任者 は主任技術者 施工管理責任者	様式 24-1 X-Rs-Rm管理データシート 監督員 環境代理人又 施工管理責任者 は主任技所者 施工管理責任者	
名	名称 工事名 期間 日曜年月日 銀方 特性 事業所名 期間 至平成年月日 現情限界 上限値 計算 大きさ 間隔 別定値内 別定値内 上限値 財務審集値 作業機械名 作成者 企 月日試験審号 別定値内 水土長, Rs= 1 2 3 日銀本金 4 日銀本金 2 日銀本金 3 日銀本金 4 日銀本金 5 日銀本金 7 日銀本金 8 日銀本金 9 日銀本金 10 日銀本金 11 日銀本金 10 日銀本金 11 日銀本金 12 日本金 10 日本金 11 日本金 12 日本金 13 日本金 13 日本金 14 日本金	印の削除
14	14	

では、ままり、このようには、							•								<u> </u>							_
			改	正	後									現	行						備	考
	事 注)1.管理図には、別紙「X-Rs-Rm管理データシート、 2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記り	9 _	改				名 答 日 蘇 裕 剛 品質特有 規格值服果 世紀単白 規格值服果 下級値	X—Rs—Rm管理区	療式 25	2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。	事 注)1.管理図には、別紙「X-Rs-Rm管理データシート」から記入す	9	RP 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		行 *	帝 選 	名	設計基準値 工事を	X-Rs-Rm管理	燕	備	考